

あうみネット

あうみネット

Communication Paper for Voluntary Network in Ohmi

人と人をつなぐ♥ 作 杉尾尚子

ネットストーリー

“学生のNPO参加”編



シリーズ～NPOへの素朴な疑問～<第5回>
NPOとNGOとどっちがいい？

市民&企業&行政ネット

め・と・て・とねっと

財団法人ハン六教育振興基金・ハン六文化振興財団
創業140年余の歴史をもつ「職と商」の誇りが
「教育」と「文化」における社会貢献を支えます。

あうみネット **リレーエッセイ**

●トピックス

2002年・新春座談会

「学生にとってのNPOとは?!」

●スポットライト

私たちががんばってます!NPO

- ミュージカルカンパニー クレムス
- 山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会
- 法泉寺寄席世話人会

伝言板 1月・2月

●センターインフォメーション

あうみ市民活動交流会開催のお知らせ
あうみ未来塾第2期生研究成果発表会
ほか

January
No. 27
2002・1

淡海ネットワークセンター

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

シリーズ～NPOへの素朴な疑問～

[NPOって ナニ?]

第5回 NPOとNGOとどっちがいい?

『諸君』6月号掲載の曾野綾子と阿川弘之の対談の中で、曾野綾子が「私はNPOをやったら堕落すると実はひそかに思っている。NPOは非営利と言いながら、損はしないようになっています。(中略) 対するNGOは、お金も時間も物もすべて自弁で、徹底して損をするようにできています」と言っている。この発言を聞くと、日本財団の会長職にある方にもかかわらず、NPOとNGOというものが本当に理解されているのか疑わしい。

そもそも、NPOは民間非営利組織、NGOは非政府組織と訳されている。NPOは非営利性を重要視するのに対し、NGOは国連憲章の中で使われたため、非政府性を強調した言い方となっている。広義のNGOは民間団体なので、企業も含まれると解釈されているが、実際は非営利を目的としている団体のことと捉えられているため、結局はNPOもNGOもその意味するところはそう変わらない。確かに、言葉として日本へ入ってきた時期はNGOのほうが早い。その活動分野から言えば、国際協力・国際交流の団体は一般的にNGOを名乗るし、また最近では、環境保全団体・女性団体もNGOを使うケースが多い。

市民活動に対する社会の関心が高まり、特定非営利活動促進法（いわゆるNPO法）に基づき認証されたNPO法人もすでに5,000を超えた。また、こうしたNPOに対しての税制支援の仕組みも始まった（本誌No.25参照）が、その中で「みなし寄附金」制度が見送られたことや、認定要件が煩雑でしかも厳しいことから、「NPO/NGOに関する税・法人制度改革連絡会」が積極的な提言・要望活動を行っている。

このNPO/NGOという言い方は、NPOもNGOも両方をうまく使おうとするもので、最近はこうした表現方法が増えてきた。NPO法をきっかけに、NPOという言葉が台頭したが、その中にはやはりNGOにこだわる団体も多いわけで、それぞれのアイデンティティを認めようということである。となると、NPOとNGOのどちらがいいとか、どちらが偉いとか言うのではなく、その組織が社会で果たす役割、その組織のミッションというものが結局は大事なのである。

(市民熱人)

めとてとねっと

市民&企業&行政ねっと

創業140年余の歴史をもつ「職と商」の誇りが「教育」と「文化」における社会貢献を支えます。

財団法人 ハン六教育振興基金
ハン六文化振興財団



ハン六文化振興財団事務局の
谷克己さん

株式会社ハン六は創業144年。江戸時代の安政5年、京都所司代のお布告(ふれ)の版木彫刻・刷り職人を辞した初代松室六兵衛が大津で印刷業「繁緑堂」を起す。現在会長の4代目松室六兵衛氏(代々襲名)が、三代目の遺志を継ぎ、事業の成果を地域社会に有効に活かそうと、1984年に財団法人ハン六教育振興基金を設立。毎年10名の奨学生を募集し、これまで総勢170名の将来ある高校生に

奨学援助を行ってきました(年間15万6千円ずつ無利息で3年間貸与)。

一方、1987年3月には地域文化の向上に寄与するため、助成を目的とした財団法人ハン六文化振興財団を

設立。昨年までの贈賞数は個人33名、94団体に達し、その受賞分野も学術研究・文化活動・スポーツ・福祉さらには環境保全など多岐にわたっています。毎年、社会文化に功績・功労のあった隠れた個人や団体が、各団体の推薦を受け、県内の有識者で構成



文化振興財団の贈賞内容を詳しく紹介した冊子を毎年発行。今年は第18回奨学生を募集します。

する選考委員会(外池忠雄理事長ら)で審査。学術・社会・文化等の独創的な調査研究に対して「学術奨励賞」、地域文化・福祉の向上に寄与した業績をたたえる「地域振興賞」、教育・文化・スポーツなどの活動に対する「助成」の三賞を贈ります。

「毎年、贈賞の裏方をさせていただいて、『私たちのような知られていない活動を認めていただけ

て…』とお礼状が届いたときには、やってよかったと素直にこの活動の意義を思いますし、ハン六社員としての誇りを感じますね。」と本業の傍ら、事務局で大忙しの谷さんは、この活動のやりがいも語ってくれました。創業140年余の歴史を持つ企業人として、地域社会の未来を拓くのが使命としっかりと双肩に受け止めます。「教育」と「文化」という二つの財団法人を運営する誇りから、「職と商」を通じて新たなチャレンジ企業として21世紀を見つめる意欲と精神が伝わってきます。



■第15回贈賞式(2001年8月)

【学術奨励賞】中川正人氏
【地域振興賞】「湖都の文学」編集委員会、滋賀音訳ボランティア連絡協議会、兵主祭あやめ委員会、連々塾江州龍王太鼓、彦根写真連盟
【助成】田上スポーツ少年団ミニバスケットボール部、滋賀県フットサル連盟、音楽遊育グループ・スウィング、FC・SHIGARAKI、滋賀考古学研究会

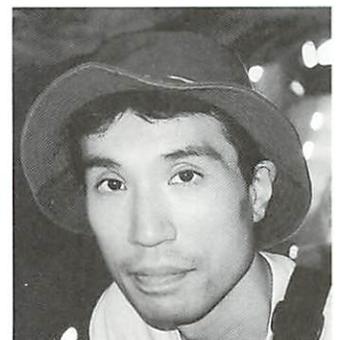
財団法人 ハン六教育振興基金・財団法人 ハン六文化振興財団

大津市浜大津1丁目1番13号 株式会社ハン六本店内 TEL.077(522)5352 <http://www.han-roku.co.jp/>

アーツが必要となる時

心をむすんで* リレーエッセイ

表現したい衝動は、誰にでも等しく湧き上がってくるもので、それをアーツ(art)として実現したり、出会ったりする場所のひとつが、現代では、たとえばうちのようなホールだったりします。まあ、ぼくらの仕事は、そういうことがうまくいくようにお手伝いしたり、ピカピカ光っているアーツを探して来たり。時にはアーツに悩む人のカウンセラーになったり…。『そんなことで悩んでいるのは暇で余裕のある連中だ』って、からまれることが、たま〜にあるんですが、はっきり言って単なる偏見です。ひよっとしたら、アーツなんてなくても全然OKな人の方が幸せなのかもしれない。でも、突然やってくる病気や怪我で初めて病院のありがたみに気付くみたいに、アーツが必要となる時が誰にでも何時かやってくるのではないかなあって思いますし、ずっと昔からそうだったのでは?と想像します。



碧水ホール学芸員
上村秀裕

今回は「クリスマス大津」の大森謙司さんです。

「学生はNPOをどう活用する？」

2002年
新春座談会

学生がNPOに関わるきっかけって、どこにあるんだろう？
ひょっとして大人は若い存在を利用しているだけ？
感覚の違う大人と一緒にNPOに取り組むことって可能なんだろうか？
そんな疑問を赤裸々に語って頂きました。

インタビュー／川勝六四（淡海ネットワークセンター事務局）

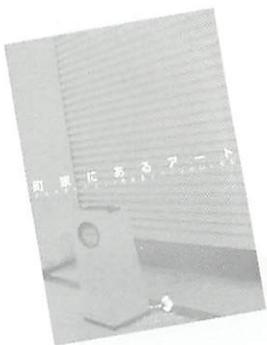
■皆さんは何らかの形で市民活動に関わっておられますが、実際、学生で市民活動に関わるきっかけはあるんでしょうか？

金城 そのきっかけがないと思うんですよ。僕がアート展覧会をやったとき、いろんな学生がたくさん集まったんですけど、彼らは別に町を活性化したいという思いはあまりなかったような気がします。むしろアートをやりたい、町の中でいろんな人に見てもらいたいという自己実現のために参加したんだと思うんですけど、そういうきっかけや仕組みづくりをやれば多くの若い人が集まるのではないのでしょうか。
中倉 若者が市民活動に興味がないなんてどの時代も変わらないと思います。大義名分なりきっかけがないと動きにくいし、一時的にメンバーをふくらますことはできて、自分たちがそ



●金城武志（カネシロタケシ）
プロフィール／滋賀県立大学環境科学部
プロフェッショナル（龍谷大学卒） 京都市在住
2年前の龍谷大学生時代に「町家にあるアート」と題して大津のナカマチの商店街でアート展覧会をしたのがきっかけで、「大津の町家を考える会」（※1）に出会い参加。「大津の町家を考える会」（※2）として「まちづくり大津百町館」（※2）をオープンさせてから本格的に市民活動を始め。昨年「町家にあるアート」を自費出版。

<社会人になってからのNPOとの関わりは？>
「漠然としか考えていませんが、NPOという方向性も一つの選択肢として考えています。新聞地の商店街でNPOを仕事としてやっておられる方の方姿を見ると何かいいききしておられるんですよ」



の活動に魅力というものを感ずることができなければ乗ってこないですね。単にボランティアではありたくないっていうところが僕らの世代にはあるんじゃないかな。
大槻 大人から見たら今時の若い子で、こつちから見たらおじさんおばさんで、お互いに冷めた目で見ている。だから大人がすごく頑張っている所には、気恥ずかしくて入っていけないというのが実情です。だから私のように一度入ると、20歳代の子に入って欲しいと、いろんな団体から声がかかるんです。一度入ってしまったら、きっかけ

は山ほどあるんですけどね。
上岡 身近に若い人向けのNPOの情報がないような気がします。自分から探そうという人は、それだけやる気のあるごく一部の人です。私もインターンをするきっかけになったのは募集のポスターですが、ボランティア募集と書いてあっても、文章がかたかったり、手元に届かないペーパーであったり、と、若い人を取り込みたいと考えるのならば、もう少し工夫が必要だと思えます。学生が地域とつながるきっかけを身近にすることが大切なのではないかと思えます。

■学生と地域との結びつきはどうなんでしょうか？

上岡 私はまだインターンで、直接NPOに関わっていないというえ、一人暮らしなので、具体的に地域との関係はわかりませんが、個人的には町内会や自治会に興味を持っています。子どもた





●上岡真実 (カミオカマミ)
プロフィール/立命館大学政策科学部2回生 京都市在住
淡海ネットワークセンターでインターンシップ中。大学のフォーラムがきっかけでNPOに興味を持ち、個人的に深めるため大学コンソーシアム京都(※3)のインターンシッププログラムを受講中。現在、実際のNPOと関わっていく勉強を積極的にしている。
＜社会人になってからのNPOとの関わりは？＞
「自分がやりたいことを追究していけるということではNPOに魅力を感じています。まだ、将来の具体的な就職については考えていませんが、私も何らかの形でNPOと関わっていききたいと思っています」

いるんですけど、他の人と意見が全然違った時、「学生さんだからね」と私の意見が無視されることあるんです。逆に、雑用が人よりたくさんまわってきたりもします。若い人はただ存在が必要だけという気がするんですね。

ちの学習の場として、また、そこからいろんなコミュニケーションが生まれるんじゃないかと思っています。ただ、実際、学生である私の回りには、出身地を離れ、下宿をしている人が多いため、それを学習するフィールドがないのも実情ですね。

金城 地元の町内会というと、運動会などは付き合いでたまに参加しますが、あんまり地元で活動しようとは思わないです。恥ずかしいというか。反面、他の地域だからこそおもしろい活動できるといっている人がいますね。

中倉 NPOは地域に密着している社会人層が基盤だと思うんですよ。僕らのような若いNPOは、その上に浮いていていいんだと思います。例えば、商店街のイベントで、僕たちが企画提案を出しても、当日になると「店が忙しい」といって来ない人が多かったりします。僕は意見を求められているのではなく、ただここにいたら、会議の場がなごむだけの存在だったんですね。だから、大人には単に利用されているんだと思っています。

大槻 同じ意見ですね。私は住宅政策に提言しようという団体にも所属して

■では、若い人と大人と一緒にって市民活動をしていくというのは難しいということですか？

中倉 商店街のイベントというと、僕らはアート関係の展示をしたかったんですけど、商店街のおじさんたちが楽しんでくれるイベントづくりができるかということを考えて、生け花の展示になってしまったんです。そこに、感覚の違いが出てくるんです。少しでも僕たちの感覚を認めてくれて、大人が変わってくれることを願っていますね。

金城 僕も今所属している市民団体では一人だけ学生で最年少です。アリの的にやられているのかなあという部分もあるんですけど、良い意味で危険分子になってやろうと思いついてやっています。それに、今年から春から大津市の市民と行政のパートナーシップの仕組みを考えると、研究会が立ち上がり、メンバーとしては僕のほかにPTAの会長さんや福祉関係で活動されている方達と一緒に研究会をしているんです。だから、だんだん大人の人も変わっていく動きはあると思いますね。



●大槻英理 (オオツキエリ)
プロフィール/立命館大学大学院理工学研究科 甲西町在住
大学時代に都市計画を学び、まちづくりという面で関わっていたこともあり、2年前に市民グループ「輝くひとまちネット滋賀」(※4)に参加する。
＜社会人になってからのNPOとの関わりは？＞
「普通に生活しながら常にNPOとかかわっていたいですね。仕事は仕事でどんどんやって、自分の住んでいる所を良くするために一役を担っていききたいと思っています」

分もあるんですけど、良い意味で危険分子になってやろうと思いついてやっています。それに、今年から春から大津市の市民と行政のパートナーシップの仕組みを考えると、研究会が立ち上がり、メンバーとしては僕のほかにPTAの会長さんや福祉関係で活動されている方達と一緒に研究会をしているんです。だから、だんだん大人の人も変わっていく動きはあると思いますね。

大槻 でも、研究会に役所の方がいつも同席して、研究会主体の文章について「その言い回しは上の人に受けが悪い」とか言われたこともあるんですよ。またこれを絶対意見として捉える市民側も問題なんですけどね。何で市役所の受けを気にして市民団体がやっているんだろうとすごく不思議になります。こういうのを見ると、先は長いという気がしますね。

上岡 私も大人と学生の感覚の違いは理められないと思いますが、反対に無理がちなだけで、ゴールが同じならいいと思います。年齢にしろ、考え方にしろ様々に違う人たちを巻き込みながら同じ目的に向かって行くことが大事なような気がします。



●中倉伸朗 (ナカクラノブアキ)
プロフィール/滋賀県立大学大学院環境科学研究科 (ACTのOB) 五個荘町在住
1998年に彦根の商店街で学生の自己実現のまちづくりをめざした団体「アクト」(※5)を立ち上げる。私自身は一昨年に「アクト」を引退。その後、彦根でもNPO間のネットワークをつくらうということで彦根コミュニティステーションという団体を立ち上げ、グループでは最少年で活動中。
＜社会人になってからのNPOとの関わりは？＞
「将来、まちづくりや都市計画などのデザインやコンサルティングの仕事に携わり、ひとつの市民活動と一緒に話し合いながら、町のデザインをしていって、運営・管理まで持っているプロセス開発をやりたいと思っています」

「町家や商店街、その他にも滋賀県には、学生と地域の人たちの共通の素材がまだまだ残っているような気がします。単に学生を都合のいい存在だけに利用しないよう、私たち大人も大いに反省するとともに、一緒に地域を作っていくように努力しなければならな」と思います。今日はどうもありがとうございました。

- ※1「大津の町家を考える会」
大津の歴史や建築にかんする勉強会、市民を対象としたシンポジウム、町家を訪ねる町歩きなどをし、町家について考え行動するために平成9年に発足された会。
- ※2「まちづくり大津百町館」
大津の丸屋町商店街の一角に、かつては書店だった建築100年の町家を借り、昨年の6月に「大津百町館」としてオープン。「大津の町家を考える会」の拠点であり、落語会や演劇など様々な催しをしている。
- ※3「大学コンソーシアム京都」
大学、地域社会及び産業界との協力による大学教育改善のための調査研究、情報発信交流、社会人教育に関する企画調整事業等を行っている教育機関。
- ※4「輝くひとまちネット滋賀」
滋賀県を舞台に地域で活動をしている個人やグループが、情報交換や助け合う場を求めて、平成7年に発足させたネットワークグループ。現在会員は120名
- ※5「アクト」
衰退の激しい彦根の商店街の活性化のために、滋賀県立大学の学生が商店街の人たちと協力して、空き店舗を的教師ながら、学生のカラーを活かしたライブや写真展、講演会、シンポジウムなどのイベントなどを開催。商店街の再生に向けて1998年発足し活動するグループ。

私たちががんばっています！

NPO

どういうふうにしたら、もっとみんながイキイキと元気に暮らせるか—そんな素敵な夢を現実のものにするために、日夜奮闘しているNPOの皆さん。環境・福祉・子ども・まちづくりetc. . . . 滋賀県に新しい風をおくるフレッシュな市民活動をご紹介します。

森のすばらしさ、大切さを伝え、 守り、次の世代に引き継ぐために

●山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会

林野庁から日本水源の森百選に選ばれている「山門水源の森」。その素晴らしさ、大切さを訴え、守り続けていくため、「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」が昨年4月に発足しました。

山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会

代表：窪田 亮二
連絡先：伊香郡木之本町杉野2704
TEL&FAX：0749-84-0111（松室方）
設立：2001年
会員：150名
URL：http://www.ds-j.com/nature/yamakado/index.html



●事務局長を務める松室美法さん。

「森のすばらしさを、多くの方に知ってもらいたいという強い思いと、環境整備が整わないまま公開すると、森の生態系が崩れ自然の景観を保てなくなるのではとの心配から、どうやって森を守り次の世代へ引き継いでいったら良いか考えたのです。その中で、みんなの森の思いに対する気持ちの高まりを感じ、それをかたちにしようと設立に至りました」と事務局長の松室美法さん。

「山門水源の森」は25万年前に生まれました。暖帯に多く分布するアカガシ林と温帯に多く分布するブナ林が一

緒に生息する大変珍しい森です。春には多くのミズゴケを有する湿原を中心に、氷河期の生き残り「ミツガシワ」を目にしたたり、夏のシーズンには日本最小のハッチョウトンボの姿を見つけたりと、季節ならではの新鮮な自然の姿を発見し、美しさや、感動、喜びを体じゅうで感じることができなのです。



●「素晴らしい自然を知ってみたい」との思いから、自然観察会も開かれています。

の様子や森の便りをホームページで公開。多くの方から応援のメッセージや意見が寄せられていますとのこと。

様々な問題をくぐり抜け、その時々の人々の多くの救いの手によって生きのびてきた「山門水源の森」。まだまだ残された課題は山積みです。

毎月1回開催されている「里山自然観察会」には、森を見ようと地元の中学生をはじめ、遠くは京都・大阪から多くの人たちが集まります。この案内で森を訪れた人は2000人にもほります。また、定期的にパトロールをして森を守っています。こうした活動

「湿原の森で繰り返される自然のはたらき自体を次の世代に引き継ぎ、これからも、行政、森林組合、地域住民、子ども達、環境保護団体、研究者等と、より多くの人たちと一緒に考え、森を中心に仲間の輪を広げ、一緒に守って行きたい」と松室さんの強い願いが伝わってきました。

(編集ポランティア 山川佳代子)

今、転機をむかえた市民創作ミュージカル活動

●ミュージカルカンパニー クレムス

「クレムス」は、東近江で活動する市民による手づくりの創作ミュージカルグループ。「Create Musical in Shiga」の頭文字をとってクレムス＝CRMSと名づけられました。96年に東近江2市7町が中心となって、新しい市民文化・芸術の創造と地域振興のために広域文化事業として始められました。

ミュージカルに出演するのは公募の市民で、毎年行われるオーディションには、地元の小学生から60歳代の年配者までが多くの人が応募しています。学業や仕事、家事の合間を縫っての厳しい練習も、参加者の温かい家庭的な雰囲気やわらわらせてくれます。そして何よりも晴れの舞台への出演が励みとなります。

歌やダンスのレッスン指導を受けるだけでなく、みんなで力を合わせて舞台装置や衣装、かぶりものまで、自分たちで作るといふから素晴らしい。幅広い技術が必要とする舞台芸術を通じて培った成果はとて大きいものです。稽古場のホールに大きな歌声が響き、ダンスが始まります。子どもたちが手をつなぎ、輪を描いて元気に踊ります。その伸びた手の先は、まるで未来の明るい世界を指差しているようです。これまで6作のミュージカルを上演し、宝塚ミュージカルコンクール銀賞、銅賞受賞と、評価を受けてきました。



●本番を2日後に控えた稽古場での練習風景。

ミュージカルカンパニー クレムス

代表：三添朗宏
事務局：近江八幡市日吉野町644-89
TEL&FAX：0748-37-5195
http://www.crms.gr.jp/
設立：1996年
会員：約250人

第6作目の今回は、びわ湖周辺の自然に生きる昆虫たちをテーマにし、コンピュータゲームの世界に迷い込んだ兄弟の冒険話。題して「バーチャル・アドベンチャー」ドラマを演じる子どもたちが昆虫のことをもっと知るために、昆虫の自然観察も体験したという手の込みようです。

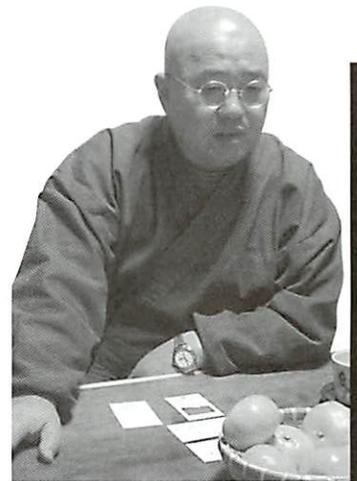
また、2月にはびわ湖ホールでの公演が予定されており、次年度の作品には万葉の歴史ドラマ「ぬかたのおおきみ」（仮題）が企画の話題にあがっています。

これまで行政の補助によって活動が支えられてきましたが、今後は自分たちの力でやっていかなければならないという転機をむかえ、クレムスの本格的な試練は、今、舞台に立ったばかりといえるかも知れません。

（編集ボランティア 森口 行雄）



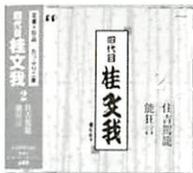
●広報や小道具、舞台構成など、裏で支えるスタッフの皆さん。



●法泉寺の住職で、発起人の増田洲明さん

法泉寺の『その日』は、門のそばに手打ちうどんのカウンターが並び、お祭りのように人が集まって来ました。一番太鼓の音とともにプロの嘶家による『法泉寺寄席』の始まりです。平成6年から年に2回開かれる落語会。開催のきっかけは書家でもある住職の増田洲明さんが、鯖街道の栃実茶屋で開かれた落語会へ行ったことからです。

「民家の膝をつき合わせるような中での落語会で『ウチの寺でも開けないか』と思い、演者であった桂枝雀一門の桂九雀さんをお願いしたんです。そうしたら快く引き受けてくださって」増田さんを中心にした世話人会が結成され、「まず、3年続けよう」と始めた落語会はこの秋16回を数え丸8年。年々お客さんも増え、近所の人や檀家だけでなく、県内外から130人ほどが集まるようになりました。



●「第14回法泉寺寄席」（平成12年12月17日）で演じられた桂枝雀一門の桂九雀さんがCDになって発売。

落語の発祥は京都。新京極の誓願寺の住職、安楽庵策上人が仏の教えを伝えるために始めたといわれています。「もともとお寺は葬儀とか宗教儀式だけのものではなくて、生きている人がいろいろな人と出会い、交流する場なんですね。たくさんの方に来ていただいで、落語を通してお互いの心の豊かさを高め合って欲しいです」と増田さん。平成10年までは桂九雀さん、11年からは同じ枝雀門下の桂文我さんをメインに5席ほどの演題が組まれます。お寺の本堂にぎっしりと集まったお客さん、正面に「落語を楽しもう」として現代人が忘れかけた礼儀などを知ったりします。この会をずっと続けて行くことが私たちの目標ですね。

（編集ボランティア 松井由美子）

法泉寺寄席世話人会

代表：増田洲明
連絡先：八日市市建部塚町191
TEL&FAX：0748-22-2814
設立：1993年
会員：10人



●昨年、11月25日（日）に法泉寺本堂で開催された「第16回法泉寺寄席」の様子。

宗教儀式の場だけでなく、お寺が、生きている人々の交流の場になって欲しいですね。

●法泉寺寄席世話人会

ブックレット近日発行予定

Vol.15「新しいコミュニティとは?~おうみ市民活動交流会2001記録~」
 Vol.16「NPOがつなぐ学校と企業」小川雅由さん(こども環境活動支援協会事務局長)
 Vol.17「コミュニティでのしごとづくり」中村順子さん(NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸理事長)
 予価各300円 ※詳しくはセンターまで

おうみ市民活動交流会開催のお知らせ

様々な分野で自主的な活動に取り組む団体やグループが集い、活動を進めるうえでの知識やノウハウを交換・交流し、また、ネットワークを形成することを目的に開催します。
 基調講演: 田村太郎さん(多文化共生センター代表)
 日時: 3月2日(土) 13時~17時
 場所: つがやま荘(守山駅下車すぐ)
 ※詳しくはHPまたはセンターまでお問い合わせ下さい。

おうみ未来塾第2期生研究成果発表会

日時: 3月16日(土) 13時~
 場所: 大津市生涯学習センター視聴覚室
 ※詳しくはセンターまでお問い合わせ下さい。

企業サロン

~企業と市民団体とのパートナーシップを考える~

県内企業の社会貢献担当者をゲストに迎え、社会貢献活動の概要、コンセプト等を聞くことにより、今滋賀県内でどのような企業の社会貢献活動が行われているのかを知るとともに、企業と市民団体との連携の可能性を探ります。
 ゲスト: 三輪益三さん(株式会社平和堂取締役総務部長)
 日時: 1月23日(水) 18時30分~20時15分
 場所: ピアザ淡海県民交流センター303会議室
 参加費: 無料
 ※次回企業サロン
 関西日本電気(株)の川畑豊明さんを予定
 日時: 2002年2月22日(金) 18時30分~20時15分
 場所: 県民交流センター303会議室

ネットワークサロン開催のお知らせ

1月27日(日) 14:00~
 場所: まちなか大学研究所(長浜市)
 テーマ: 地域づくりとボランティア(仮題)
 ※詳しくはセンターまでお問い合わせ下さい。

編集後記



楽しい会話を繰り広げ取材に応じてくださった松室さんは余呉中の理科の先生。耳にする内容が楽しく、新鮮で驚きや感動でいっぱい。帰る頃には、私自身自然の一部なんだと実感。お忙しい中、本日に貴重な時間をありがとうございました。(編集ボランティア・山川)

さすがにプロの囁きは飽きさせず、本堂にとざれることなく笑い声が続きました。お客さんは大半が高齢の方たちですが、一旦笑いのモードに入るとなんでも可笑しい。箸の転んだのを笑うのは若い娘だけではない、昔の娘さんも一緒。笑門来福、大いに笑ってシワを増やした次第です。(編集ボランティア・松井)

クレムスの稲古場は八日市今堀にある。倉庫を借りているという現場に青山裕子さんを訪ねた。夜7時半という時間に大勢の子どもたちが集い、お母さんと一緒に公演の準備に余念がない。「目標は高く活動は手の届くレベルで」と青山さん。子どもたちからいっっぱいの元気をもらった取材であった。(編集ボランティア・森口)

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

今号の特集はいかがでしたか?「自分もまだ若い」と思っていたが、出席者の発言を聞いていて、ハッとさせられることがいくつかありました。気がつかないうちにおじさんモードに入っていたようです。

意見を求めるからには、出してもらった意見をいかに実現するように努力するべきか。なかなか難しいことですが、今回の座談会でいただいた意見を誌面に反映させていけるよう努力していきたいと思えます。

今年もネットワークセンターは皆さんの活動の輪が広がり、活発になっていくよう応援していきます。ご支援をよろしくお願いたします。(事務局 川勝)

Voice ヴォイス

テロ報復と市民社会

9月11日、あの思い出すだけでも身の毛のよだつ事件は起こりました。テロ事件に対しての憤りは、当然皆さんもお持ちでしょうし、私の気持ちも皆さんが持たれているものさそう変わりません。でも、ブッシュ大統領が言った「テロに対する報復=戦争」という図式が、ずっと私の頭の中で気になっていました。テロというのは犯罪です。だから犯罪として対処すべきであるのに、国際法で認めていない報復のための戦争を仕掛けたことは、果たしていかがだったのでしょうか。

メディアの論調やいわゆる世論は、圧倒的な報復戦争支持で、この状況は空爆が続く状況の中でもそう変わっていないと思います。何か熱病にうなされているかのよう、市民が同じ方向を向いてしまう。本当は、市民社会の良さは、

その多様性と自由な責任ある発言の保障のはずなのに、どうしても思えます。しかし、自分の頭で考える人たちはいるのです。メディアや世論に左右されない市民の動きが、実はたくさんあるのです。ニューヨークでのピースパレードの模様はテレビで放映されていたので、ご存知の方もいらっしゃるでしょうけど、日本国内でもいろんな活動が行われています。多くのNGOが声明を出し、募金活動や集会、署名活動を行っているところもたくさんあります。

国会で参考人として出ていらしゃった医師の中村哲さんは、長年にわたってアフガニスタン難民の医療支援をされています。中村さんの活動を支えるベシヤワル会は、自分たちの危険も顧みず、現地で食糧支援を再開しています。国境なき医師団の永井真理

さんは大津で講演されたとき、「国境なき医師団は政治的に中立を保っていないと、信頼を得られない人道支援ができない。しかし、アメリカの空爆と食糧・医薬品の同時投下に関しては、反対している」とおっしゃっていました。日々、アフガニスタンの状況がはっきり入ってくるのではないですが、一刻も早くこの「戦争」が終わり、アフガニスタンの人たちが落ち着いた日々の生活を送られるよう切望します。

私が具体的にどのように関わっているのかと言われると、実際何もできていないので心苦しいですが、こうした思いを持っている人間が滋賀県にもいるということを分かっていたいたたくて筆をとりました。(大津市在住 K)

淡海ネットワークセンター

(財)淡海文化振興財団

■〒520-0801 大津市におの浜1-1-20
 ■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442
 ■http://www.biwa.ne.jp/~ohmi-net
 ■E-mail:ohmi-net@mx.biwa.ne.jp

ご利用日時●月曜日と祝日の翌日を除く毎日(12/29~1/3を除く)
 火~金曜日/9:00~19:00 土・日曜日、祝日/9:00~17:00

●淡海ネットワークセンターの情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。
 ・各地域振興局、県民情報室、県内図書館、琵琶湖博物館、女性センター、文化産業会館、陶芸の森、草津コミュニティ支援センター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、さきさきホール、滋賀銀行、郵便局(ボランティア貯金窓口)、公民館など



©無断転載を固くお断りいたします。

